



かしこく  
やさしく  
すこやかに

# 学校だより



花園小  
R6, 6, 28  
文責 河野

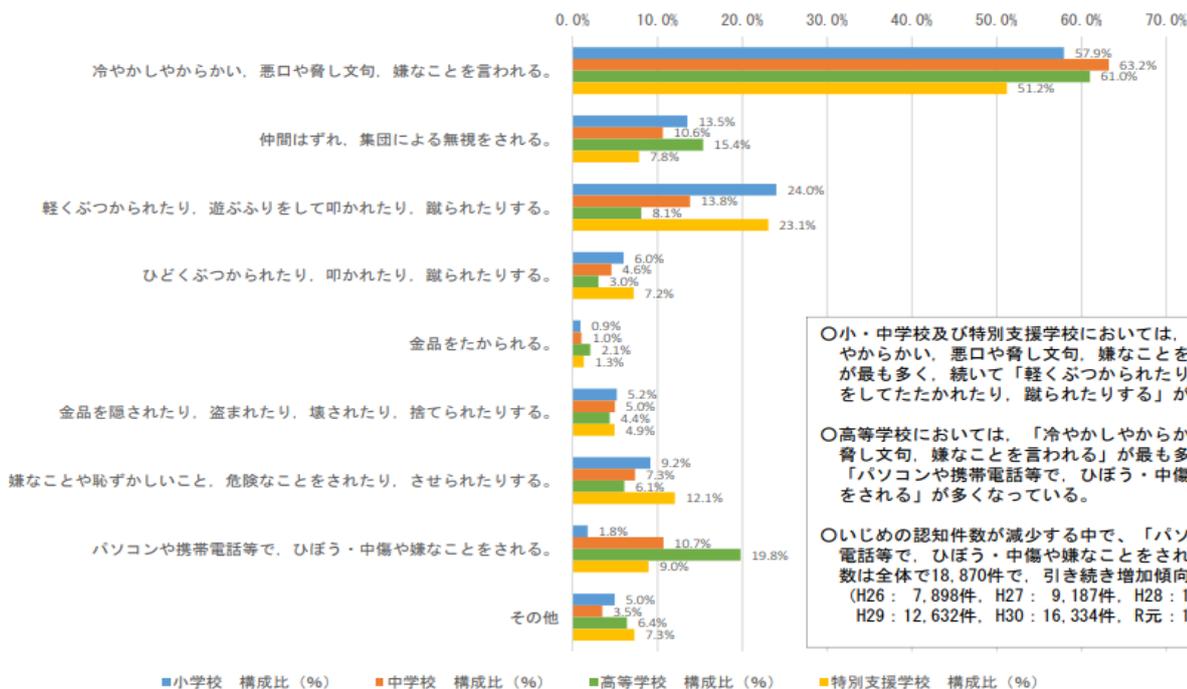
## 6月は「心のきずなを深める月間」でした！

6月は県下「心のきずなを深める月間」という取組を進めています。新しい学年になって、学級等での人間関係がある程度深まってくる6月は、子供たちにとって、もめごとが多くなる時期でもあります。もめごとが「深刻ないじめ」に発展することがないようにということの一つのねらいとして、この月間が設けられています。学校では、生活アンケートなどを行い、子供たちとの面談を実施しています。また、集会では、なかよし委員会による「なかよし宣言」も考えられました。

もし、お子さんの様子で気になることがありましたら遠慮なく担任までお伝えください。いじめの早期発見により解決していきたいと思っております。

### いじめの態様別状況

(複数回答可)



○小・中学校及び特別支援学校においては、「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が最も多く、続いて「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたかれたり、蹴られたりする」が多い。

○高等学校においては、「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が最も多く、続いて「パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる」が多くなっている。

○いじめの認知件数が減少する中で、「パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。」の件数は全体で18,870件で、引き続き増加傾向にある。  
(H26: 7,898件, H27: 9,187件, H28: 10,779件, H29: 12,632件, H30: 16,334件, R元: 17,924件)

### 「令和3年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」；文部科学省

上のグラフは、全国の学校であげられた「いじめの態様別状況」です。「冷やかしかからかい等」が最も多い結果となっていますが、更に詳しく調べると、被害者になった経験と加害者になった経験のどちらにも該当する子供が多くいることも報告されています。つまり、「いじめは、どの子にも、どの学級にも起こり得る」ということです。確かに、友達と集団生活するときは、互いに競ったり、他者の考えに疑問をもったり、考えが合わなかったりするときがあります。そこで、「折り合い」をつけて乗り越えることが社会性を培うための大きな学びの一つとなります。「いじめ」という手段ではなく、自立に向けての適切な手段として、相手の言葉をしっかり聴き、互いの考えを出して話し合い、分かり合える力と心(本校での「認め合う力」)を育むことが重要です。

右の国立教育政策研究所の資料では、いじめを予防する学校の主な取組みとして、「規律・学力・自己有用感(自分は認められているという実感)」を育むことがあげられ、家庭の主な取組みとして「早寝・早起き・朝ごはん」を推進することの大切さが示されています。

本校でも「いじめはどの子にも、どの学級にも起こり得る」ということを念頭に置きながら、学校教育目標である「自分を大切に、主体的に学ぶ児童の育成」のもと、安全で安心できる学校づくり、いじめが起きない、起きてもしっかりと対応できるような環境づくりを進めていきたいと考えています。どうぞ、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

○身体的な健康を中心にした、主に家庭で取り組むべき課題は

「早ね・早おき・朝ごはん」



○いじめに向かわせない、主に学校で取り組むべき課題は

- ・規律(きりつ)
- ・学力(がくりよく)
- ・自己有用感(ゆうようかん)



★きちんと授業に参加し、基礎的な学力を身につけ、認められているという実感を持った子ども

「いじめについて正しく知り、正しく考え、正しく行動する」国立教育政策研究所